

Nerhol 種蒔きと鳥
Misreading Righteousness

とき・7/12(土)～10/13(月・祝)
ところ・2階展示室
内容・Nerhol(ネルホル)は、グラフィックデザイナーの田中義久(1980-)と彫刻家の飯田竜太(1981-)により2007年に結成されたアーティストデュオです。連続写真や映像から抽出した画像の出力紙の束を彫り刻む独自の制作手法を基軸として、その観測範囲を他者や他領域と接合し、時空間を超えた因果関係の複雑な絡み合いや、不可視化された物語までも語りうる豊かな表現へと深化させてきました。これまでの表現活動の歩みを振り返った千葉市美術館における個展(2024)を経て、新作・未発表作を中心に構成するこの展覧会は、彼らの多層的な探究の現在地と表現言語の新たな展開を目撃する機会となるでしょう。

観覧料・一般1400円(1120円)、大高生1120円(900円)
※()内は20名以上の団体料金
※中学生以下と障害者手帳等をご提示の方(付き添い1名を含む)は無料
※企画展観覧券(ぐるっとバスを除く)をお持ちの方は、併せてMOMASコレクションもご覧いただけます。
《関連イベント》
○対談 Nerhol(田中義久、飯田竜太)×金井直(信州大学人文学部教授)
とき・9/12(金)17:00～19:00(開場は16:30)
ところ・2階講堂/定員・80名(当日先着順)/費用・無料
○担当学芸員によるギャラリートーク
とき・9/20(土)15:00～[30分程度]
※手話通訳、文字表示付き
ところ・2階展示室/費用・企画展観覧料が必要です。

野島康三と斎藤与里
一美を掴む手、美を興す眼

とき・11/1(土)～1/18(日)
※会期中、一部作品の展示替えがあります。
前期:12/7(日)まで、後期:12/9(火)から
ところ・2階展示室

内容・野島康三(1889-1964)は浦和に生まれ、明治末期から大正期にかけて、絵画の影響を色濃く受けた写真作品を制作しました。後には新興写真の動向に身を置き、『光画』や国画会写真部などに発表しました。加須出身の斎藤与里(1885-1959)は、京都で洋画を学んだのち渡仏。帰国後は西洋の新しい芸術思潮を広めながら、次第に南画等の影響を受け、晩年には故郷の加須に取材した伸びやかな画風を追求しました。この展覧会では、画廊経営者やコレクター、あるいは評論家や教育者として同時代の美術を支えたことでも知られるそれぞれの作家の足跡を辿るとともに、大正期における二人の交流にも着目しながら、関連作家の作品や資料を交え、両者が美術に注いだ眼差しにも迫ります。



野島康三《題名不詳》1921年
ガム・プリント
京都国立近代美術館蔵

観覧料・一般1400円(1120円)、大高生1120円(900円)
※()内は20名以上の団体料金
※中学生以下と障害者手帳等をご提示の方(付き添い1名を含む)は無料
※企画展観覧券(ぐるっとバスを除く)をお持ちの方は、併せてMOMASコレクションもご覧いただけます。
《関連イベント》
○講演会「写真家・野島康三 静かなイノベーター」
講師・光田由里(多摩美術大学アートアーカイブセンター所長・大学院教授)
とき・12/7(日)15:00～16:30(開場は14:30)
ところ・2階講堂/定員・80名(当日先着順)/費用・無料
○ワークショップ「銀塩写真の制作体験」
講師・佐野陽一(美術家)/定員・各10人(事前申込制、応募者多数の場合は抽選・要参加費)
※申込み方法等、詳細は当館ホームページをご覧ください。
①「モノクロームのでざわり」(大人向け)
とき・1/11(日)13:30～16:30
内容・引き伸ばし機を使って、ネガから印画紙にモノクロームのイメージをプリントします。
対象・高校生以上
②「ひかりのえ」(子ども向け)
とき・1/12(月・祝)13:30～16:30
内容・カメラを使わずに、物のシルエットや質感を直接、印画紙に写します。
対象・小学校3年生～中学生
○担当学芸員によるギャラリートーク
とき・①11/9(日)、②12/14(日)各15:00～[60分程度]
※②は手話通訳、文字表示付き
ところ・2階展示室/費用・企画展観覧料が必要です。

MOMAS コレクション (収蔵品展)

ところ・1階展示室
観覧料・一般200円(120円)、大高生100円(60円)
※()内は20名以上の団体料金
※中学生以下と障害者手帳等をご提示の方(付き添い1名を含む)は無料
※11/14(金)は「県民の日」のため無料

とき・9/6(土)～11/30(日)
※会期中、一部作品の展示替えがあります。
前期:10/19(日)まで、後期:10/21(火)から
◇セレクションーパレエ・スエドワと美術
パレエ・スエドワ解散100周年を記念して、関連する美術家の作品や資料を紹介いたします。
◇アーティストの絵本
元永定正とタイガー立石の版画作品と絵本をあわせて展示します。
◇MOMASの動物園
動物をモチーフにした作品が大集合!動物に向けた作家のまなざしを読み解きます。



今村紫紅《龍虎》1913年
絹本着色(後期展示)

《関連イベント》
○ぬいぐるみお泊り会
とき・11/15(土)～11/22(土)
内容・ぬいぐるみを預かりして美術館で撮影し、フォトブックをおいぐります。
撮影・足立涼/対象・中学生以下の方がお持ちのぬいぐるみ
定員・20体(事前申込制、応募者多数の場合は抽選)
費用・1000円(フォトブック制作費+送料)
※申込み方法等、詳細は当館ホームページをご覧ください。
○コレクション・トーク
内容・学芸員が展示作品から1点を選んで解説します。
費用・MOMASコレクション観覧料が必要です。
① とき・9/21(日)15:00～15:30
担当学芸員・吉岡知子
作品・フェルナン・レジェ《誕生日》1950年頃
② とき・11/8(土)15:00～15:30
担当学芸員・佐伯綾希
作品・小松崎邦雄《五月の花嫁》1965年

とき・12/6(土)～3/1(日)
◇セレクション
大正期を中心とする日本近代美術の動向を、当時の作家たちに刺激を与えた西洋美術の作品を交えてご紹介します。
◇MOMASのゆるい絵・素朴な絵
日本の近代絵画に見られる微笑ましく可笑しい、「ゆるい」表現をテーマにコレクションをご紹介します。

《関連イベント》
○コレクション・トーク
※12月中に実施予定です。
日程が決まり次第、当館ホームページ等でお知らせします。

ミュージアム・シアター
「舞踊と美術」

ダンスと美術作品の関係性をテーマに、以下のイベントを開催します。
① ダンス・パフォーマンス「From there」
とき・11/24(月・休)11:30～、13:30～
(2回公演、各回15分程度)
ところ・地階センターホール/費用・無料
内容・シアターカンパニーOrganWorksを主宰し、ダンサー、振付家として活躍する平原慎太郎氏が新作を披露します。
出演・平原慎太郎、池上たっくん、福田涼香、今泉かこ、杉崎舞花、AYUBO
申込・不要 ※立見でのご鑑賞となります。
② 講演会「パレエ・スエドワ解散100周年記念 忘れられたパレエ工団」
講師・芳賀直子(舞踊史研究者)
とき・11/24(月・休)15:00～16:30(開場は14:30)
ところ・2階講堂/定員・80名(当日先着順)/費用・無料
内容・レオナルド・フジタやフェルナン・レジェなど多くの画家が携ったパレエ工団、パレエ・スエドワについてご紹介します。

ミュージアムショップおすすめ商品

毎年ご好評をいただいているグッドモーニング社のカレンダー。2026年版も9月より順次販売予定です。今回新発売のBirdsは簡単に組み立てることができる、ペーパーキットカレンダーです。6種類の鳥がセットされており、パーツを台紙から取り外して鳥を組み立てると、2か月表記のカレンダーになります。その他にも各種取り揃えておりますので新年のご準備には是非お越しください。
size(mm):210(H)×297(W)×2(D) 価格:2640円(税込)



アート体感ワークショップ
MOMASのとびら

フリープログラム以外は、全プログラム事前予約制です。当館ホームページからお申込みください。

《11月のプログラム》
11月分のお申込みを10/1(水)から受け付けます。
○工房
とき・11/8(土)、29(土)各13:30～15:00
対象・小学生～大人/費用・500円
○もすまつり ※事前申込み不要
とき・11/14(金)10:30～12:00、14:00～15:30
対象・どなたでも/費用・無料
※「県民の日」に行うフリープログラムの拡大版です。いくつかのプログラムの時間を数回ずつ実施する予定です。

《12月のプログラム》
12月分のお申込みを11/1(土)から受け付けます。
○み～っけ!
とき・12/6(土)、13(土)各13:30～15:00
対象・4～6歳(未就学児)+保護者/費用・無料
○フリープログラム ※事前申込み不要
とき・12/20(土)13:30～15:00
対象・どなたでも/費用・無料

《1月のプログラム》
1月分のお申込みを12/1(月)から受け付けます。
○フリープログラム ※事前申込み不要
とき・1/10(土)13:30～15:00
対象・どなたでも/費用・無料
○工房
とき・1/24(土)13:30～15:00
対象・小学生～大人/費用・500円
※応募が定員以上の場合は、抽選とさせていただきます。
※開催日が複数あるプログラムは、いずれも同じ内容を実施します。複数の実施日にお申込みできますが、ご参加いただくのはそのうち1日のみとなります。

「MOMASのとびら」のページ
https://pref.spec.ed.jp/momas/MOMASのとびら

一般展示室(地階)

※日程・内容は変更される場合があります。最新の情報は各主催者へお問い合わせください。
※展示により開室時間(特に最終日の終了時刻)が異なります。
◆9/30(火)～10/5(日)
公募第57回第一美術協会埼玉支部展……………一般展示室1
第43回キヤノンフォトクラブ浦和写真展……………一般展示室3
第42回涸水会展……………一般展示室4
◆10/7(火)～10/12(日)
第21回水彩画連盟埼玉西支部展……………一般展示室1
第58回埼玉三軌展……………一般展示室2
第40回アート現宇展……………一般展示室3
◆10/7(火)～10/19(日)
ヨシズミトシオ個展
第75回ありあるクリエイションズ藝術企画……………一般展示室4
◆10/14(火)～10/19(日)
金田勉彫刻作品展……………一般展示室1
第25回地平展……………一般展示室2
もりまなぶ生誕100周年記念作品展……………一般展示室3
◆10/21(火)～10/26(日)
第46回太平洋玉展……………一般展示室1
第34回旺玄会埼玉支部展……………一般展示室2
龍山朋子染色作品展 一心に映るもの……………一般展示室3
全日写連浦和支部写真展……………一般展示室4
◆10/28(火)～11/2(日)
第37回埼玉創元展(公募)……………一般展示室1
現代アート実験02展……………一般展示室2～3
カメラは5びき、いた。……………一般展示室4
◆11/5(水)～11/16(日)
2025CAFネビュラ展……………一般展示室1～4
◆11/19(水)～11/23(日・祝)
第68回埼玉県高校美術展……………一般展示室1～4
◆11/26(水)～11/30(日)
令和7年度第64回埼玉県高等学校書道展覧会……………一般展示室1～4
◆12/2(火)～12/7(日)
第15回埼玉県障害者アート企画展……………一般展示室1～2
第9回桑の会絵画展……………一般展示室4
◆12/9(火)～12/14(日)
第59回全日本書道芸術展……………一般展示室1
K-BLUE心の中青写真を描く……………一般展示室3
伊豆丸明範展……………一般展示室4
◆12/20(土)～12/21(日)
第60回「郷土を描く児童生徒美術展」……………一般展示室1～4

【クラウドファンディング挑戦中】
「あの椅子」に座ってみたい!の声にお応えし、デザイン・チェア新規購入プロジェクトを実施しています。当館ホームページをご覧ください。ご協力ください。
エーロ・アールニオ《ボールチェア》

MOMAS コレクション 2025.9.6 - 11.30
アーティストの絵本 元永定正の場合

だから、具体の精神やわなあ。やっぱり、残ってる。今まで見たことのないような作品が出たらええんやけども。
(「元永定正 オーラル・ヒストリー 第2回」2008年12月19日)
抽象的な形を基調に構成された元永定正の絵本。幼少時に読まれた方も少なくはないでしょう。元永の絵本の多くは、意味を説明しない絵と、意味を持たない言葉の組み合わせで成立するものです。こうした特徴から、元永が絵を描き、谷川俊太郎が文を担当した『もこもこ』は「言葉を獲得する以前の乳幼児が認識する世界とは何なのかを示唆している」とも評されています。今なお幅広い層の支持を集める元永の絵本は、どのように生まれたのでしょうか。
元永定正(1922-2011)のキャリアは、漫画や絵画、オブジェの制作に始まりました。とりわけ1955年の具体美術協会(以下、具体)への加入以降、本格的に美術作家としての道を歩み始めます。具体は、その前年に吉原治良を精神的支柱として結成されたコレクティブであり、その作品やマニフェストを掲載した小冊子『具体』の創刊号の「新鮮な感動をあらゆる造形の中に求めて止まないもの」という言葉が示す通り、型にはまらない、新しい芸術の創造を重視していました。創造性を重んじる具体は、美術教育にも深く結びつきます。メンバーの嶋本昭三は子ども美術教室での指導に携わり、童詩雑誌『きりん』には創刊期から具体メンバーが関わっていました。具体というバックグラウンドに目を配ると、元永による絵本制作は必然のようにも思われますが、実際には元永が子どもの美術教育に直接携わることは稀だったようで、『もこもこ』の制作においても「子どもへのメッセージ」を意識していなかったと語っています。
元永が手掛けた最初の絵本『The Pwoaan-Hwaan Cloud Family(ポアン・ホワンけのくもたち)』は、当時様々な画家と絵本の制作を行っていたラポ教育センターからの依頼で作られたものでした。この絵本の絵の抽象性は、後の元永の絵本を思わせるものではありませんが、やや活字が多く、また活字のレイアウトも一定です。この絵本では、テキストが絵に先行して存在し、元永は物語に絵を付けたのでした。それに対し4年後に出版された『もこもこ』は、ニューヨーク滞在中の元永の絵に、気ままに題名を付けていた谷川俊太郎が、制作を持ちかけたことで生まれた作品でした。『もこもこ』においては、文字とモチーフの連関が明確でありながら、文字は絵を説明する機能を持たず、時には文字のないページも登場します。『The Pwoaan-Hwaan Cloud Family』に比べれば、意味に還元されない色や形、音の優位性は明らかに具。他方、元永は晩年においても自分のなかには具体の精神が生きていることを語るのですが、それもまた元永の絵本を考える手掛かりとなるでしょう。それは例えば「文学性の排除」であり、また「見たことのないものを創造すること、でした。元永の絵本は、なほ教育センターの絵本を皮切りに生れ、谷川とのコラボレーションによって、その代名詞的表現を獲得してきました。そしてそこには同時に、具体の精神も息づいていたのかもしれない。(N.M.)



谷川俊太郎・作、元永定正・絵
『もこもこ』文研出版

ご存じですか? ミュージアム・シアター

皆さんは、当館の自主事業のひとつ「ミュージアム・シアター」をご存じでしょうか。映像や音楽、ダンス、パフォーマンスといった、展覧会の枠組みではなかなか取り上げられない時間芸術を紹介する事業で、来館者に多様な芸術体験を提供する目的で年に1～2回程度開催しています。元々、同様のイベントが開館当初から1997年まで実施されていましたが、2022年に新規事業としてリニューアルし復活を果たしました。今日的な視点を含めつつ様々なテーマを扱うことができると、担当学芸員も毎回楽しみながら計画を練っているこのイベントですが、新規事業のため認知度はまだまだ…ということで、ここ数年の企画の詳細をご紹介します。
第1回目の開催となった2022年度のテーマは「ホラー映画とジェンダー/フェミニズム」。単なる娯楽映画と思われがちなホラー映画に潜む因襲の社会構造の反映やジェンダー観に着目し、『悪魔のいけにえ』(1974)と『サスペリア』(2018)を上映しました。しかし、ただ上映するだけで終わらないのがこのミュージアム・シアターの特徴です。会場ではホラー映画とジェンダーに関するキーワードを紹介するリーフレットを配布したほか、上映後には映画研究者・鷺谷花さんによる講演会も実施。講演会にはホラー好きの方、フェミニズムに関心を持った方など幅広い世代の参加者が集まり、盛況となりました。2023年度は、企画展「イン・ビトゥー」の関連イベントにご登壇いただいたことをきっかけに、映画監督・清原惟さんを含む女性作家3名の特集上映「女性たちの映像表現ーマヤ・デレン、出光真子、清原惟」を行いました。それぞれの作家は世代も生き立ちも全く異なる一方で、身体的な感覚やユーモア、家のモチーフなど、いくつかの共通点を見出すことができます。上映後のアフタートークでは、国立映画アーカイブ特定研究員の中西香南子さんと清原さんの対談を実施し、監督/映画研究者という2つの視点から、各作家の魅力についてお話しいただきました。
冒頭でお伝えしたように、ミュージアム・シアターは映像上映だけではありません。昨年度の夏には、企画展「吉田克朗展」の関連事業としてダンス・パフォーマンスの上演が実現しました。オランダを拠点に活躍するダンサー三崎さんと振付家のディモ・キリーロフ・ミレフさんが、来日のタイミングに合わせて出演してくださったのです。もの派の中核作家として知られる吉田克朗の制作態度に、舞台上で「あがまえていくことを重視するディモさんの姿勢と似たものを感じ取ったという三崎さんは、吉田作品へのオマージュを込めて「Erranceーさすらい」(振付:ディモ・ミレフ)を披露されました。照明と音楽によるドラマティックな演出に合わせ、水を飲む、腰かけるといった日常的な動作を取り入れつつ繰り広げられるパフォーマンスは自然体でありながら緊張感と生々しさを有し、吉田克朗との共鳴を見せていました。
そして、今年度も11月24日(月・休)にミュージアム・シアターの開催が決定しました。テーマは「舞踊と美術」。舞踊史研究者の芳賀直子さんによるパレエ・スエドワ関連講演に加え、ダンサー・振付家の平原慎太郎さんによるダンス・パフォーマンスが行われます。舞台となるのは当館の地階センターホール。3つの映像が取り囲み、天井から光が差し込む賑やかなこの空間でどのようなパフォーマンスが生まれるのか。ぞうご期待ください!さらに、本イベントと連動し、MOMASコレクション(9月6日～11月30日)ではパレエ・スエドワのテーマとした展示企画を実施しますのであわせてお楽しみください。ミュージアム・シアターのこと、知っていただけでいいでしょうか。前から知っていたという方も、少し気になってきたという方も、ぜひご参加をお待ちしています! (S.Ayu.)
*現在、今年度第2回目のミュージアム・シアターも計画中です。2回目は映像作品の上映を予定しています。続報をお待ちください。



「Erranceーさすらい」上演の様子